

また新たな春を迎えました。コロナの今年度の情勢はどうなるのか気がかりですね。一方、コロナに関わりなく、みなさんの年代で考える価値のある普遍的なテーマもあります。それは、青年期をへて「おとな」になるということです。今年度は、この「青年からおとなへ」というテーマを様々な角度から取り上げてみたいと思います。

はたらくことと、愛すること

フロイトという人は晩年に、人間の精神的健康とは何かと聞かれ、「はたらくことと、愛すること」と答えました。当たり前のことを言っているようで、単純で表面的にすら思えます。しかし、これは就職や結婚のことだけを行っているのではないと思います。

「はたらくこと」というのは、誰かに依存せず、自分の足で立つこと、と言えるのではないのでしょうか。経済的な自立もさることながら、自分で考え、自分の意思を持ち、行動できることです。さらには、人の役に立つことができることという意味合いもあるでしょう。

「愛すること」というのは、結婚や恋愛のことだけではなく、人に関心を向け、人とつながることと言えるのではないかと思います。受け取るだけでなく、与える側にもなるという意味合いもあるでしょう。



フロイトさん

自分の足で立ち、人とつながる

さて、そのように考えるとどうでしょうか。自分の足で立ち、なおかつ人とつながっていること、というのは、とても「おとな」なことであるように思えます。

自分の考えを持っているが、独りよがりではなく、他者との対話を楽しめる。甘えたところはないが、人への配慮はできて、人のために何かをする。自分ができていることに自信を持つが、過信はせず、他者ができていることに敬意を持ち、やってもらったことに感謝する。などなど…

これらは、一生かけて取り組んでいくことのようにも思えます。ただ、「おとな」になることを考え始めるきっかけとして、とても示唆に富む話ではないかとも思いますが、いかがでしょうか。

